

### Ⅲ 調 査 票

--	--	--	--	--	--	--	--

【お願い】  
アンケート回答の前に県政モニターID  
番号を左の枠内に記入してください。

\* モニターIDについては、郵送した封筒の宛名の下段に記載してあります。(数字8桁)

記載欄 (モニターIDが不明な場合のみ記載してください)

県政モニターID番号が**ご不明の場合**  
はお手数ですが本人確認のため、お  
名前、生年月日を右側の記載欄にご  
記入をお願いします。

【記載例】 長野 太郎  
(昭和22年2月22日)

氏 名 ( )

生年月日 ( 年 月 日)

## 【地域の防災活動への参加について】

問1～4の質問は、地域の防災活動への参加状況の変化を把握するため、以前実施したアンケート調査(平成28年度第1回(28年8月実施))と同じ内容となっています。

長野県では、「長野県強靱化計画(※)」(平成28年度～平成29年度)に基づき施策を実施しています。この計画は、行政、企業、個人が一体となって「オール信州」で強靱化に取り組み、県民の皆様の生命・財産・暮らしを守ることを目的としており、「絆」で生命などを守る地域防災力の充実に重点項目の一つとしています。

つきましては、地域防災力を充実させることに繋がる県民の皆様の防災活動への参加等についてお伺いします。

※「長野県強靱化計画」は、多くの災害経験から得られた教訓を踏まえ、行政・企業・個人が一体となり、最悪の事態を念頭に置いた、平時からの「備え」に関する施策を効果的に推進するために策定された計画です。

問1 地域で実施されている防災活動(防災訓練、救命講習会等)に、あなた又は同居のご家族の方が参加したことはありますか。(○は1つ)

① 積極的に参加している

② 参加したことがある

③ 参加したことはない

} 問2へ

→ 問3へ

問2 問1で「①積極的に参加している」又は「②参加したことがある」を選ばれた方にお伺いします。

どのような防災活動に参加していますか。(○はいくつでも)

① 自治会などの地域単位で行っている防災活動(防災訓練等)

② 有志による防災ボランティア活動

③ 行政等が実施する防災に関する講習会等

④ その他(具体的に: )

**問3** 問1で「③参加したことはない」を選ばれた方にお伺いします。  
防災活動に参加しない理由は何故ですか。（〇は1つ）

- ① 防災訓練や講習会等があることを知らなかった
- ② 参加したいが、仕事など他の用事を優先
- ③ 参加する方法が分からない
- ④ 防災に関心がない
- ⑤ 自治会などが実施していない

**問4** 地域の防災力を高めるために何が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- ① 住民個々の意識高揚
- ② 地域の交流や地域行事への参加
- ③ 若年層世代の参画
- ④ リーダーの育成
- ⑤ 資機材の整備
- ⑥ 行政による財政支援
- ⑦ 防災に関する講義や体験型講習会（ワークショップ）の実施
- ⑧ 地域の企業や専門家（大学等）との連携
- ⑨ インターネットやSNS（ソーシャルネットワーク）を使った情報発信
- ⑩ その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

### 【手話に関する意識について】

長野県では、障がいのある人もない人も互いに尊重し、共に生きる社会を実現するため、平成28年3月に「長野県手話言語条例」を制定し、手話やろう者に対する理解促進、手話の普及に取り組んでいます。

つきましては、手話に関する皆様の意識についてお伺いします。

**問5** あなたは手話についてどの程度知識や理解がありますか。（〇は1つ）

- ① これまで手話を全く見たことがない
- ② テレビ等で見たことはあるが、手話が手や指の動きで表現する言葉（言語）であることは知らない
- ③ 手話を見たことがあり、言葉（言語）であることも知っているが、使うことはできない
- ④ 簡単な手話（あいさつや自分の名前）を使うことができる
- ⑤ 手話を使ってコミュニケーションをとることができる

問6 長野県では、平成28年度より県民向けに手話講座（あいさつなどの簡単な手話の学習ができる内容）を県内の10保健福祉事務所において、年4回開催しています。

今後とも手話講座の開催を通じて、手話やろう者に対する理解促進、さらには手話の普及につなげていきたいと考えていますが、この手話講座へ参加したいと思いますか。  
(○は1つ)

- ① 参加したい（すでに参加されたことがある方も含む）  
② どちらかといえば参加したい  
③ どちらともいえない  
④ どちらかといえば参加したくない  
⑤ 参加したくない
- 問7へ
- 問8へ

問 7 今後実施する手話講座の充実に向けた参考とするため、問6で「①参加したい（すでに参加されたことがある方も含む）」又は「②どちらかといえば参加したい」を選ばれた方にお伺いします。

手話を学習する場合、目標とするレベルはどの程度と考えていますか。  
(○は1つ)

- ① 初級レベル（あいさつ・自分の名前が手話で表現できる）
- ② 中級レベル（単語の手話で意思を伝えることができる）
- ③ 上級レベル（スムーズに日常会話がができる）
- ④ その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

問8 手話講座以外に、手話やろう者に対する理解促進、さらには手話の普及に向けて、長野県としてどのような取組が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- ① 聴覚障がい者と交流する機会の提供
- ② 手話を学ぶことができる機会の提供
- ③ 手話をテーマとしたイベントの開催
- ④ I Tを利用した手話に触れる機会の拡大（手話に関するアプリの開発など）
- ⑤ 教育機関における手話の教育
- ⑥ 県の広報媒体（テレビCMなど）での手話の導入
- ⑦ 県主催のイベント・会議における手話通訳
- ⑧ 手話に関連した取組を行う団体への助成
- ⑨ 手話を利用可能な事業所（レストラン、銀行、病院など）の周知
- ⑩ その他（具体的に：

【生物多様性に関する意識について】

問9～10の質問は、生物多様性に関する意識の変化を把握するため、以前実施したアンケート調査（平成27年度第1回（27年5月実施））と同じ内容となっています。

長野県は、日本の中でも特に生物多様性の豊かな県として知られていますが、私たち人間の生活や開発、最近では地球温暖化や外来生物の影響など、さまざまな問題を抱えています。

こうした中、長野県では「第3次長野県環境基本計画」（平成25年度～平成29年度）に基づき、県民、関係団体などと連携し、生物多様性を保全する取組を進めています。

この環境基本計画が最終年度を迎えたことを受け、現在、次期環境基本計画の策定に向けた検討を行っています。

つきましては、生物多様性に関する皆様の意識について伺います。

問9 動植物の種類が多さだけでなく、生き物の相互のつながりを指す「生物多様性(※)」の言葉の意味をご存じですか。(〇は1つ)

- ① 言葉の意味を知っている
- ② 意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
- ③ 聞いたこともない
- ④ わからない

※「生物多様性」とは、生き物たちの豊かな個性とつながりのことです。生き物の生命は一つひとつに個性があり、全て直接的、間接的に支えあって生きています。例えば、植物は多様な昆虫のエサやすみかかとなっていますが、一つの植物が減れば、それにつながる多くの生き物に影響が及びます。

問10 生物多様性の保全のためには、地球上のさまざまな生物やそれらが生息できる環境を保全する必要がありますが、このことについてどのようにお考えですか。  
(○は1つ)

- ① 人間の生活がある程度制約されても保全を優先する
- ② 人間の生活が制約されない程度に保全を進める
- ③ 人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、生物の生息環境が失われてもやむを得ない
- ④ その他（具体的に：\_\_\_\_\_）
- ⑤ わからない